

◆ 巻頭言

持続可能な社会をつくる大人の「学習」

持続可能な開発のための教育の10年がめざすもの

村上 千里

地球温暖化、森林破壊、食糧問題、エネルギーの高騰、紛争、貧困と飢餓と感染症・・・、世界中で「このままでは私たちは生き続けることができない」状況が広がっている。豊かさと便利さを追い求めるあまり、私たちは「持続不可能な社会」をつくり出してしまった。「持続可能な開発」とは、これまでの経済発展最優先の開発ではなく、自然との共生や社会的公正の実現を織り込んだ開発のこと、つまり社会の仕組みを持続可能なものに変えていくことだ。しかし、あらゆる人々が問題を認識しながらも、その恩恵を受けている現在のシステムを「変える」ことは簡単ではない。立場によって考え方も異なり、利害が対立することもある。そこで重要な役割を果たすのが「学習」だ。

かつて北九州市では、子どものぜんそくに心を痛めた女性たちが、婦人会での学習を重ね、その原因が製鉄所のばい煙であることを示す物的証拠を調査で集め、市と企業に働きかけて、その対策を迫った。企業城下町の住民は、製鉄所の恩恵と被害を同時に受けている。そのような状況で企業に変革を求める運動を展開するのは、簡単なことではなかったはずだ。しかし、婦人会は学びあいを重ね、本当に大切なことは何かを確信し、仲間を増やしていくことで、市と企業から変革を導き出した。

問題は個人で抱えているだけではなかなか解決しない。まして、多くの問題は社会の仕組みと深くつながっている。だからこそ、同じ問題意識をもつ人が集まり、学習を通して仲間を増やし、社会の仕組みを変えていくことが有効なのだ。

世界が抱える問題は、一足飛びには解決できないが、世界の問題と私たちの暮らしは密接につながっている。ならば暮らしの周辺から起こす小さな変革が、問題の解決にもつながっていくに違いない。

持続可能な社会をつくるために、「本当に豊かな暮らしとそれを支える地域」を築く学習を進めよう。「急がば回れ」である。



PROFILE

村上 千里
(むらかみ ちさと)

NPO 法人「持続可能な開発のための教育の10年」推進会議 (ESD-J) 事務局長 (2003年～)。1992年、環境 NGO に転職し、人間の環境情報センターや、環境省の環境情報拠点「地球環境パートナーシッププラザ」の開設などに携わる。行政・企業・市民のパートナーシップによる ESD (持続可能な開発のための教育) の推進に取り組んでいる。

www.esd-j.org